

「新会長としての信条とCEMAへの想い」に対して

本年は、CEMAが1976年8月24日に設立されて以来、記念すべき40周年を迎えました。このたび、前木下会長が2期4年の任務を全うされた後の会長職のご依頼に、当社は、設立時の発起人の一員として、また初代の会長職を引き受け、塗装機械の日本産業への貢献に少なからず寄与してきた自負もあり、社内的には創立90周年を迎え多難な時期ではありますが、お引き受けさせていただきました。

当社は初代、また現在の8代の会長以外も副会長としてCEMAの運営に関わらせて頂きましたが、塗装機械業界の発展は、これまでCEMA運営に関与された多くの先輩諸氏の汗とご苦勞の賜物であります。会長として、将来の発展のために何らかの足跡を残す覚悟で、CEMA原点からの出発とする所存です。時代は40年前の高度成長後期とは全く変貌しております。ものを作って輸出するのが当然と思われていた日本経済は、もはやグローバルな波に飲み込まれTPPなど各業界が生き残りをかけるのに必死の状況に追い込まれています。塗装機械業界も、塗装がもの作りに不可欠な以上、これからも買い手からは多難な要求にさらされ、また、その要求スピードは早まり、新たな対応体制が求められるようになるでしょう。これらの課題に工業会として英知を結集して何らかの貢献ができれば幸いです。それが出来なければ工業会の存在意義が問われることになるでしょう。

「CEMAは、どのような事業活動に注力して展開していくのか」に対して

CEMA活動は、「21世紀ビジョン」に基づいた中期計画を立て、具体的な活動を展開するのが基本です。CEMAは20世紀に入る時点で、

1. 塗装技術を通じて新しい価値を創造し、その活動をグローバルに展開します。
2. 塗装技術を追求し、作業環境の改善と地球環境の保全に尽力します。
3. 会員各社は、相互の信頼関係を深め、共生と共栄を自らの手で切り拓きます。の3点からなる21世紀ビジョンを作成しました。

現在の中期計画の3大項目は

1. 塗装機器・設備業界の地位向上
2. 塗装技術の向上・普及
3. 安全・環境への取り組み

となっています。

2016年度の具体的な計画は下記の通りであり現在実施中です。

1. CEMA 活動の実施を担う5部会（機器部会、設備部会、技術部会、Automotive 協議会、もの作り懇談会）の活性化
2. 対外情報発信としての第17回技術シンポジウムの開催、ASTECC の支援
3. 情報発信としてホームページのコンテンツの充実

以上の計画を実施するに際しては、塗装機械だけでなく塗料を始めとした塗装関連団体との相互協力が不可欠となります。そのためにCEMAは常に門戸を開いて、各種の情報交換を図っています。一例として、CEMAが2007年以来支援しているIPCCO（国際工業塗装高度化推進会議）との情報交換を行い、業界全体の発展への寄与を模索していきます。

また、社会的な責務である安全・環境の問題は、業界のみならず行政とも密接な情報交換を図り、積極的に取り組むとともに、具体的な取り組みにも参画していきます。

・「2,016年度の見通しと機器・設備を含めた工業塗料・塗装へのメッセージ」 に対して

2016年度は始まったばかりですが、昨年来の中国経済低迷、円高傾向などで、CEMAの出荷も、この数年、順調に伸びていた輸出に陰りが出始めている。国内向けも横ばい状態であり、年間の見通しも明るくありません。本年度の政府の約28兆円の景気てこ入れ効果が塗装機械業界にまで届くのは少し先と思われます。しかし、外部環境の好転だけを待つわけにはいきませんので、業界からの新商品、新システムなどの発信に取り組みたいと思います。そのためにはCEMAだけでなく工業塗装全体の課題抽出、解決のためのネットワークが必要になります。工業塗料・塗装の関係者が一堂に会せるような場作りが望まれ、出来た場にはCEMAも積極的に参画いたします。

また、塗装機械だけでなく塗料もそうですが、グローバルな経済体制に移行する中での対応も急がれます。CEMAは塗装機械の「出荷統計」を40年に亘って公表しておりますが、その内容は、現在、当初の国内販売に輸出を加えたものですが、海外生産、海外販売などは実質的に増加しているにも拘わらず現在未集計となっています。これから業界としてどのような情報が望まれているか再検討していきます。

また、業界の永遠の課題となっている環境問題も、EU、中国、他の国々で独自の法制化が予測されます。今年1月に施行された中国のVOPC規制は厳しく、日本の進出企業の今後の対応も苦慮させられます。

かように厳しい状況ですが、CEMAとしての技術情報発信、業界への貢献などは継続して進めます。本年6月には、工業塗装の基本用語600を図解入りで説明した「塗装用語事典」を発行いたしました。さらに、ホームページには塗装の質疑応答のFAQを100問掲載していますが、これもさらに現場の問題を集めて充実していきます。CEMA中期計画の「塗装技術の向上・普及」は、工業塗装の向上におけるCEMAの本来の役割でもあります。

これらの活動のご理解とご協力を塗装関係者の皆様方をお願い申し上げます。